

視点

10年先を見通した埼玉づくり

埼玉県知事 上田 清司



明けましておめでとうございます。

昨年は、花咲徳栄高校が全国高校野球選手権大会で埼玉県勢初の優勝を成し遂げるといふ、とてもうれしい出来事がありました。

埼玉県も元気です。

日本の総人口が減少する中、本県は全国3位の増加率で730万人を超えました。平成15年からの名目県内総生産の増加額は全国2位、平成17年から10年間の企業本社転入超過数は全国1位です。

そして、来年はラグビーのワールドカップ大会が、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。県民の皆様と共に「オール埼玉」で大会を盛り上げていきたいと思ひます。

さて、今年が平成30年という節目の年であることから、過去を振り返り、先の10年を考えてみたいと思ひます。

我が国の生産年齢人口は平成7年をピークに減り始め、その減少数は今年で1,200万人を超え10年後はさらに500万人減ると見込まれています。正にこれからは、社会における一人一人の価値が高まっていく時代だと言えます。

そして10年前のリーマンショックは非正規雇用を急激に増やし、あるいは製造業の海外移転で地方における若者の雇用の場を減らしました。これが、貧困や格差、地方創生といった今の社会問題につながっています。

本県においては、いち早く取り組んでいる「埼玉版ウーマノミクス」の効果もあり、働きたい女性を支える環境が整ってきました。さらに、活躍し続けたいシニアの働く場の確

保や地域デビューの後押しなど、それぞれの希望にかなった社会参加を支援していきます。そして、健康寿命を延ばし医療費の抑制にも効果のある「健康長寿埼玉モデル」を県全体に広げ、全ての人が活躍できる埼玉を目指します。

また、これからは人手不足を補いつつ生産性向上にもつながる人工知能やロボットなどの最新技術の普及が加速的に進むと思われる。そこで今後10年を考えると、まずは新しい成長産業を創り、稼ぐ力を取り戻すことが何よりも重要です。ナノカーボン、医療イノベーション、ロボットなど5分野で取り組む「先端産業創造プロジェクト」では、リチウムイオン電池の2倍を超える大容量が可能なマグネシウム蓄電池の実用化にめどが付くなど成果が出てきました。さらに実用化や製品化を進め、先端産業企業の集積につなげていきます。

そして10年後には今の半分の仕事がないという見方もあることを考えると、子供たちの創造力を伸ばす教育にも力を入れていかななくてはなりません。

さらに、貧困や格差は生活に直結する重要な課題です。「生活保護世帯の子どもの学習支援」は埼玉から全国に広がり、「児童養護施設退所者のアフターケア」は進学、就職、資格取得で大きな成果を上げています。

これからも足元から10年先までをにらんだ本質的な取組を追求し、埼玉の未来を創っていきたく思ひます。

今年も県政への御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。